

障害福祉サービス事業所の特色ある 取り組みをご紹介します

長崎県CSR通信
～第134号～

『働きたい』の気持ちを大切に。障害のある方が緑豊かな自然と大地に囲まれた場所で畑を耕し、種をまき、苗を植え、植物を育てる楽しさを、時には厳しさを感じ、地域の方とのつながりを大切にしながら佐世保市で生産活動に取り組む、「就労継続支援B型 さとやま事業所」様にお話を伺いました。

「フレッシュ家族」のブランド名を持つさとやまファームの野菜づくり

現在就労継続支援B型の事業所として営業されていますが、現在何名の利用者がおられますか。また、事業所の状況について教えてください。

14名の方にご利用いただいています。
作業内容としては、施設内の農作業に携わっている方が11名。施設外就労で除草作業等に携わっている方が3名です。

現在の生産活動に取り組まれたきっかけについて教えてください。

→社長の実家が農家だったため、法人として野菜づくりのノウハウを有していたことがきっかけです。

また、大村湾を見渡す自然豊かな環境を活かし、利用者の方に伸び伸びと作業をしていただくには農業が最適であると考えました。

○農福連携での支援を開始してメリットや課題などありますか。

→メリットは自然豊かな環境で心にゆとりが生まれること。初めて農業に携わった利用者の方が、作物の成長に驚き、感動し楽しいという声が聞けることです。

課題は、事業所での生産はすごく充実しているのですが、利用者の方が少ないという事です。

○アピールポイントを教えてください。

→農作業初心者の方でも、適性にに応じて作業を分担することで、楽しく、やりがいをもって仕事に取り組んでいただいています。職員だけではなく、経験豊富な利用者の方がしっかりサポートする体制を整えています。

また、特別支援学校生の実習受け入れも行っており、生徒さんが事業所職員や他の利用者の方と笑顔で生き生きと作業していることに、生徒さんのご家族も喜ばれています。



高い工賃水準を維持されている秘訣はありますか。

→生産する野菜等の質には自信を持っていますが、福祉事業所にとっては、その商品の販売先をいかに獲得するかが課題だと思います。当事業所では、販路拡大のための市場調査、営業活動に力を入れることは勿論ですが、取引先のニーズにいかに柔軟に応えられるかを常に意識しています。

例えば、市内の宿泊施設と契約を結んでおり、野菜を納品していますが、レストランで提供される料理は季節や流行などによって変化していくものです。料理人の方からは、料理に合わせた品種や大きさを揃えた野菜を生産、提供してほしいとの相談をいただくことがあり、当事業所では来所いただいた料理人の方と打合せをしながら、新たな品種、作物を生産するなど、要望に応えられるよう努力しています。



他に工夫されていることはありますか。

→販路の拡大のため、令和4年9月に直売所をオープンしました。朝採れの新鮮な野菜をはじめ、シイタケや加工食品を販売しています。ご近所の方だけではなく、遠方からもお越しいただいております。「さとやま」ブランドのリピーターさんもいます。また、佐世保五番街の近くということもあり、観光客の方や、外国人の方も来店されるため、英語の対応ができるスタッフを配置し、お客様目線に立った接客を心がけています。

○今後の目標をお願いします。

→これからもお客様のニーズに合った野菜づくりを継続し販路を拡大することです。

また、直売所についてはオープンして日が浅いので、認知度を上げることです。

前述したとおり農業のノウハウや生産体制は整っていますので、より多くの方に当施設で就労していただき、農作業等を通じてお一人お一人の自立に向けた支援をしていきたいと考えています。興味を持たれた方、見学・体験は随時対応しておりますので、お気軽にお問い合わせください。



CSRとは？

Corporate Social Responsibilityの略で、「企業の社会的責任」のことです。障害福祉サービス事業所の取り組みのほか、事業所と取引のある企業や障害者雇用の先進例をご紹介します。

「長崎県CSR通信」 電話095-895-2455

FAX095-823-5082

発行 令和4年12月28日 長崎県福祉保健部障害福祉課
バックナンバーは

長崎県CSR通信

検索

事業所へのお尋ね等は下記へお問い合わせください。

さとやま事業所

〒859-3451 佐世保市針尾東町2289番地
TEL 0956-59-5878

さとやまファーム直売所

〒857-0877 佐世保市万津町2-9